

令和2年度 学校関係者評価表

< 学校経営ビジョン(めざす学校像) >

令和3年2月18日

<p>【学校スローガン】「海に学び 海をひらき 世界にはばたく」 生徒一人一人を大切にすることで、生徒がお互いを尊重し合い、支え合い、高め合う雰囲気や醸成し、基礎学力と確かな技能、豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域・企業の願いに応え、信頼される魅力ある学校をめざす。</p> <p>① 互いを尊重し合う雰囲気があり、安心安全な学習環境の中で、競い合い、高め合える学校 ② 積極的に学ぶ意欲と態度を育成し、将来をたくましく「生き抜く力」を醸成できる学校 ③ 望ましい勤労観や職業観、忍耐力の育成等を通して、将来への夢を描き進路実現できる学校 ④ 地域や郷土の発展に貢献できる専門的な知識や技能を学べる学校 ⑤ 地域に根ざし、地域に開かれ、地域に必要とされる、信頼の厚い魅力ある学校</p>
--

< 重点目標 >

<p>スローガン:「海洋魂の具現化!」～海洋高校ならではの教育・特色(海洋ブランド)の確立をめざして～ ① 生徒にとって安心安全な学習環境の確立 ② 産業教育審議会答申の具現化(教育内容・システムのリニューアル) ③ 水産・海洋教育の魅力の発信(広報活動の改善による入学定員充足) ④ 創立75周年記念行事に向けた準備開始</p>

< 具体的な方策、評価等 >

○評価【 A:十分に達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:努力を要する】

重点目標	具体的な方策	主な担当校務分掌等	自己評価	成果及び課題		学校関係者評価	
				項目別	総合		
① 生徒にとって安心安全な学習環境の確立	・ 外的常時指導 → 「行動目標6」と「ハンドブック」による、内規の可視化と学級・学年で差のない指導の徹底	教務部 生徒指導部 進路指導部 環境保健部 各学年 各系	B	<ul style="list-style-type: none"> ○6つの行動目標「時間、挨拶、清掃、整容、礼節、言葉遣い」については、各部や学年会の粘り強い指導により、生徒の習慣化が見られるようになった。 ○授業態度については、例年に比べて改善されており、意識の向上が見られた。 ○ハンドブックによる心得や諸規則の見える化を行い、全職員で地道に指導してきた効果として、まだ細かな課題は残るものの、問題行動等は減少し、生徒の学校生活も落ち着いてきた。 ○昼食時の黙食指導を始めたが、職員の協力も得られたことで、安全な食事環境となった。 ○清掃では、急いで担当区域へ向かい素早く取り組むなど全体的に向上が見られた。 ○個人ゴミの持ち帰りについては指導が徹底しており、生徒も遵守している。 ○後田川清掃は、宮崎市公園緑地課と連携して円滑に実施できた。 ○情報の共有化が円滑に進んでおり、学級・学年間での指導の差は少ない状況である。 ▲進路内定後の緩みを防ぐため、社会人になっていくことの自覚を促し、社会人として求められる資質を向上させていく手立てを検討したい。 ▲わずかながら遅刻、欠席が常態化してきている生徒がいるため、組織的な指導を検討したい。 ▲高校生に相応しい休み時間の過ごし方を再考させていくための効果的な指導や精神的成長につながる指導を検討していきたい。 ▲新しい生活様式の実践力養成が急務である。 	B		
	・ 内発的動機付け → 学習・生活面での自己肯定感の高揚、1年生への適応指導の工夫(専門授業見学、学年行事、部活動等)	教務部 生徒指導部 進路指導部 渉外部 第1学年	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査の成績不振者集会において、保護者の協力も得ながら学習の取組に係る啓発を行い、定期考査前に学習会を実施したことにより、成績不振者を減少させることができた。 ○海鳴祭について、PTA役員数名の協力により、撮影等の取材活動をしていただき、PTA新聞も1学期と2学期合同で発行することで、生徒の輝く姿を保護者へ伝えることができた。 ○1年生の企業見学等を予定していたが、コロナ禍の影響により実施できなかったため、企業等に來校いただき、希望類型ごとにガイダンスを行った。生徒は真剣に参加していた。 ○1年生の専門授業見学は円滑に実施でき、類型選択のよい参考になった。 ○各学年ごとにタイムリーな学年集会・合同終礼を実施したことにより、必要な啓発や注意喚起を適切に行うことができた。 ▲全国的な傾向ではあるが、部活動加入状況が低迷している。より魅力的な部活動情報の発信に努めたい。 	B	B	
	・ 2分前予鈴の徹底 → 学びに向かう姿勢と授業規律の確立 + 落ち着いた学習環境の醸成	教務部 各学年	C	<ul style="list-style-type: none"> ○予鈴が鳴ることにより、生徒の動きが授業の体制へ変わっていくようになった。 ○ハンドブックでも履修と修得に分けて説明を掲載したことで、生徒にも授業への取組、態度の重要性が理解できたのではないかと感じている。 ▲授業開始時に教材が準備できていない生徒が若干いるため、指導を工夫していきたい。 ▲授業への取組、態度が定まらない生徒が若干なからいるため、授業観察指導を含めて指導した。期間中は授業中の態度も良好だが、指導終了後に緩むため、指導方法を工夫していきたい。 	B		
	・ 改訂「いじめ防止基本方針」に基づく面談・アンケート等による情報共有と適時的確な対応	教育相談部 生徒指導部 各学年	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級面談及びいじめアンケートの実施が、いじめ、生徒の悩みや生徒間トラブルの早期発見に役立った。職員間の必要な情報共有も円滑に行うことができた。 ○生徒の学校での様子や状況に関する情報を保護者と共有し、連携することで、状況が好転したケースが数例あった。 ○問題解決のための職員間の迅速な連携や協力体制が構築できた。 ▲インクルーシブ教育の職員研修会が1回しか実施できなかった。次年度は複数回行いたい。 	A		
	・ 生徒会活動の活性化 → 活動する場面の保障、学期の始め終わりで生徒会長の話、他校視察と交流	生徒指導部	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会担当職員の積極的な指導により、生徒会新聞の発行やHP上での情報発信等、主体的な活動ができるようになった。 ○生徒会長はじめ生徒会役員が校内放送を通じて生徒全体へ語りかける場面が多くなり、効果的な働きかけになった。 ○昼食時の黙食において、生徒会役員がクラシック音楽を紹介して流したり、連絡を行うなど、積極的な発信ができるようになった。 ▲新型コロナウイルスの影響から、ボランティア活動や地域貢献活動がほとんど実施できなかった。 	A		
② 産業教育審議会答申の具現化	・ 「知財学習」の制度設計と実践 → 「総合的な探究の時間」の代替として指導体制の確立、新商品開発	知財学習担当 教務部 水産食品系	B	<ul style="list-style-type: none"> ○水産食品類型の生徒(3年生)や1年生への知財学習は、ほぼ予定通りに実施することができ、生徒の知的財産権に対する感覚の変容を促すことができた。 ○3年生の課題研究(総学の代替科目)において、生徒が研究、開発した県産サクランボを活用したデザート・レシピが高い評価を受けた。 ▲今後は、各学年、学校全体をあげての取組に発展させる必要がある。 	B		
	・ 「学び直しの時間」の設定(45分短縮による時間捻出) → 学習意欲・目的意識の高揚 + 上位者個別指導時間の確保	学校改革推進委員会 教務部 進路指導部 カリキュラム委員会	C	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な教材を活用した基礎学力養成講座(仮称)について、協議を重ねる中で、国語、数学、英語それぞれに望ましい実施方法が見えてきた。次年度の本格実施に向けて、年度内に詳細を詰めていきたい。 ▲短縮45分授業により学び直しの時間を確保することについて、様々な支障も出てきたため、検討を重ねてきたが、結果的に今年度の本格実施は困難となった。 ▲国立四年制大学等への進学を希望する成績上位者への個別指導を行う準備をしていたが、現状として上位者の進路希望が合致しなかったため、実施できなかった。 	B		
	・ カリキュラム・観点別評価の研究 → 観点別評価の改訂(3観点)、2年次の英語、類型と長期乗船実習の整理	教務部 英語科 実習船室	C	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力診断テストの結果から、2年次のカリキュラムに英語科目を入れる必要が大きいと判断し、カリキュラム委員会において、令和4年度(新教育課程開始年度)から、これまで以上に英語の基礎学力を保障しうる教育課程へ改訂していくことにした。 ▲評価に係る研修会が十分に実施できなかったため、次年度の早期に開催して評価の改訂を進めたい。 ▲類型と長期乗船実習の整理については、学科再編ともリンクすると捉えており、令和5年度以降の改訂を目的に協議を始めている。今年度段階では具体的な方向は未定。 	A	B	
	・ 魅力づくり研究 → 調理師免許取得(専門学校との連携)、姉妹校提携検討(台湾の水産系高校)、水産系大学進学指導強化	教務部 水産食品系 進路指導部	C	<ul style="list-style-type: none"> ○調理師免許取得(専門学校との連携)については、県外他校の実施状況等を研究した上で当該専門学校との協議・交渉を行ってきた。大筋の合意は得られているが、実施条件等を満たすための県内他校との連携協力を進めている。 ▲姉妹校提携(台湾の水産系高校)については、コロナ禍の影響が大きく進まなかった。 ▲水産系大学進学指導強化については、教員側の実施体制は十分あるものの生徒の進路希望状況から難しい状況が続いている。 	A		

③ 水産・海洋教育の魅力の発信	・ 広報活動の抜本的改善 → 説明会期日の早期周知、中学校担当者の進洋丸乗船+説明会、情報ファイル配付、HP+SNSの活用、中学校への担当者定期訪問、新入生と進路内定者の出身中学への近況報告 等	教務部 広報企画部 海洋科学科 進路指導部 第3学年	B	○コロナ禍ながらも体験入学を8月及び10月に実施できた。また、中学校の高校説明会にも積極的に参加した。 ○教務部と広報企画部が連携して学校HPをリニューアルしたが、中学生向けを主体として図やイラストを多用したことで、より見やすく情報が豊富なHPになった。YouTubeやInstagramも活用して情報発信を行っている。 ○進路内定者に対して、出身中学校への進路内定の報告と近況を伝える葉書を書く取組を指導しているが、中学校の先生方からも好評をいただいている。 ▲専門職員の担当割りによる市内中学校進路指導部との連携については、感染症対策に配慮する必要があると大きく、2回目以降の訪問が思うように進められなかった。 ▲学校見学等については、臨時休業や感染症対策の必要から、例年通りには受入れができなかった。 ▲情報ファイルだけでなく学校ポスターや紹介動画作成にも力を入れていきたい。	A	A
	・ 進路、部活動、資格取得等の実績 → 学校説明会でアピールできる材料を一つでも多く…	広報企画部 進路指導部 生徒指導部 海洋科学科 各教科	C	○コロナ禍の影響により、就職面接試験をリモートで実施する企業も多くなったが、生徒は緊張しながらも真剣に取り組む、高い進路実績を収めることができた。 ○資格取得については、危険物取扱者試験やビジネス文書検定試験等で合格率が向上した。また、ガス溶接等では、積極的に受験する生徒が増加してきた。 ▲キャリア教育に係るインターンシップや職場見学等が実施困難な一年だったが、次年度は実施方法等を工夫していきたい。	B	
④ 周年行事に向けた準備開始	・ 校内準備委員会の稼働	創立75周年準備委員会	D	▲新型コロナ感染症対策に係る協議等を優先する必要があるため、校内準備委員会を思うように開催することができなかった。 ▲代船建造スケジュールとのリンクを想定しているため、次年度に具体的な協議を進めていくことになる。	-	-
	・ 同窓会との連携及び協議	同窓会事務局	D	▲同窓会もPTA役員会等と同じく新型コロナの影響により、会議等が開催できておらず、具体的に協議することができなかった。次年度に状況を見極めながら開催したい。	-	
	・ 男子制服マイナーチェンジ+女子制服リニューアル(ブラウス、パンツスタイル 等)検討	生徒指導部 学校改革推進委員会	C	○制服の在り方については、今年度改めて協議する機会が増えた。 ○女子のスラックス(パンツスタイル)の導入については、希望により対応することが望ましいと考えているが、需要数は比較的少ないと見込んでおり、販売価格が高くなることが予想される。今後、販売店との協議を継続していきたい。 ▲抜本的に女子制服をリニューアルさせることについて、デザインや価格の検討も含めて、生徒、PTAや同窓会にも広く意見を求めていく必要があるが、今年度は具体的な動きには至らなかった。	-	